



交流塾

主宰塾の一つ、「交流塾」を昨年12月に開いた。年に一度、トップ塾、リーダー塾、会議塾の受講者たちが集まって、グループワーク形式による研修を行っている。

カードの内容は他の受講者には口頭で伝えること。相手には見せない、渡さない、その逆もしないこと。

約40分間、個性溢れたグループワークが繰り返され、受講者17人が提出した受講所感、延べ3万字を超えていた。

情報共有の難しさ

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。『介護ビジョン』編集委員。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人財創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ! 経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

今回は、各グループに約40枚のカードを用意した。カードには課題を含めたさまざまな情報が盛り込まれていること。そのなかからある課題を見つけ出し、それを解決するため、与えられた紙を活用すること。カードの配布は人数比に応じて行うこと。各自が手にした

この研修を終えた後、職場に戻って伝達講習の講師を務めるといふ人が何人もいたからである。「上手くできる」ための手法や結果のみに固執してはならない。「上手くできなかった」からと凹むこともない。どれも大事な学びの一つなのである。

ある受講者の所感には、「自分の手持ちのカードに書いてあることはよくわかるのですが、他の方が口頭で発表した内容についてはメモこそしたものの、それ自体が整理できておらず、かえって混乱する原因となっていました。ここから、情報共有の難しさを感じました。私のグループでは、メモから直接、概念図づくりに入ってしまったため情報が錯綜し、漠然としたイメージしか浮かばない状態が続きました。終盤に入った頃、主宰者から「マトリックス」というヒントが示されたことで、情報を整理してから図を作成してはみたものの、課題解決までには至りませんでした。ここから、情報整理の大切さを感じました。これらは、日常業務にも言えることだと思います。ある問題や課題についていくら情報があっても、正しい手順を踏んでそれらを整理していかなければ、解決にたどり着くことはできません。会議や引き継ぎの場で、他の人がどんなにたくさん情報を出したとしても、こうしたスキルがなければ、それらが

無駄になってしまいかねないということ。その意味では、リーダーの役割というのは非常に重要だと痛感しました。声の大きい人の意見だけが通る、葛藤や対立を避けるために無難な方法を選択する、などは普段の会議でもありがちで、結果本来の解決には程遠い。何となくもやもやした答えになつてしまうことがあります。課題の解決ができなかったことが悔しくて、後日、いただいた正解を見なすまま、もう一度このワークをやってみました(一人で)。①最初に不要な情報と必要な情報を分ける、②必要な情報をマトリックスにして整理、③整理した情報を図に落とし込んでいく、④複数の情報を組み合わせ、新たなヒントを見つける、などに注意しながらやってみたと、30分ほどで課題を解決することができました」と。

解決のヒントや答えの出し方を学んだとしたら、改めて再チャレンジしてみるという自学自習を育む姿勢は見事である。

学んだ知識や習得したことを職場内で伝達講習会を開く環境を整えているだろうか。質の差は、このようなところに潜んでいる。